

平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金（女性の健康の包括的支援政策研究事業）
地域保健・医療・教育機関・産業等における女性の健康支援のための研究
(H30-女性-一般-002)
分担研究報告書

女性の健康支援の各種取組の実態に関する調査 - 国内過去5年の研究動向、および大学
保健管理センター、保険薬局における各種取組に関する実態調査

分担研究者 荒田尚子 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

研究要旨

女性の健康は生涯を通じて身体的・精神的に女性ホルモンの動態に大きな影響を受けるため、男性とは異なる特徴を持つことを正しく理解することが必要であるが、わが国における女性の健康支援は、疾病治療やスクリーニングが中心で、分野ごと（保健・医療・教育機関・産業等）、診療専門科ごと（内科、産婦人科、小児科、精神科・整形外科など）、職域ごと（医師、看護師、薬剤師、保健師、養護教諭など）に縦割りに展開されており、これらの組織をシームレスに繋ぎ、補充していくことが重要となる。

1. 国内過去5年の研究動向：我が国の過去5年間の女性の健康支援に関する文献について、テキストマイニングによるキーワードを分析することで、女性の健康支援領域の現状と動向を量的に明らかにし、今後の女性の健康支援対策の一助とすることである。「生涯を通じた女性の健康支援」体制の構築には、客観的な根拠（エビデンス）に基づく女性の健康支援の検討を進める必要があり、ライフステージ別の女性の健康支援に関する研究の現状について、テキストマイニングを用いて検討した結果、成人期(19歳～44歳)以降に比較して、妊娠（胎児）期、小児・思春期（0～18歳）では、女性の健康に関する研究が少ないことが明らかになった。成人期(19歳～44歳)の女性の健康支援に関する研究は、看護学生や大学生などの19歳～22歳、特定健康診査対象である40歳以降での検討が多く、その間の性成熟期世代の研究は少ないことが予想された。

2. 大学保健管理センターにおける実態調査：生涯を通じて女性の健康を包括的に支援できる環境整備を進めるために、現在、大学で行われている女性の健康支援の取組の実態調査を行った。関東・甲信越地方の大学保健管理センターに勤務する職員66名に対し平成30年8月にアンケート調査を実施した。対象者の職種は、看護師が最も多かった（49.4%）。多くの大学は、貧血、月経関連疾患、拒食症、うつ、甲状腺疾患を、女子大学生の健康課題として把握していた。医師、助産師は、把握している全ての課題に対して個別または時々個別に対応していたが、それ以外の職種では、対応できていない場合もあった。婦人科医との連携・協力体制がある保健管理センターは32.1%、女子学生向けの健康支援やプ

プログラムを実施している保健管理センターは28.4%であった。多くの保健管理センターでは、女子大学生が抱える女性ホルモンに関わる症状や悩みを検討課題として把握していたが、それらの課題全てに対応できていないことが明らかとなった。今後、大学保健管理センターと連携した女性特有の健康課題に対する取組として、婦人科受診の重要性の啓発やヘルスリテラシー向上施策等を検討する必要性が示唆された。

3. 保健薬局における実態調査：生涯を通じて女性の健康を包括的に支援できる環境整備を進めるために、保健薬局/薬剤師における女性の健康支援の各種取組の実態把握調査を行った。2019年3月、医師・医療従事者向け情報サイトの会員である保健薬局/薬剤師56,000名に調査案内を送付し、同意が得られた439名（回収率：1.0%）を対象に実施した。対象者の年代は20代4.1%、30代31.7%、40代30.3%、50代以上33.9%であった。健康サポート薬局の割合は、10.7%であった。女性の健康支援の取組を実施している保健薬局の割合は、全体の13.2%で、更年期以降の女性に実施されていた。薬局に訪れる女性からの相談で多い項目は、不眠、便秘・下痢、頭痛、倦怠感、冷え、こころ、肩こり、尿もれ、高血圧、腰痛の順に高く、月経やPMSは下位であった。保健薬局に務める薬剤師は、現在、セミナー、女性の健康推進室ヘルスケアラボ、妊娠と薬センターから情報を集めているが、実際には、産婦人科医からの情報を得たい希望が明らかとなった。産婦人科やウイメンズヘルスの専門家監修のサイトはメディカルスタッフにも波及する可能性が示唆された。

研究分担者

井ノ口 美香子 慶應義塾大学保健管理センター 准教授

研究協力者

徳村光昭

慶應義塾大学保健管理センター 教授

當仲 香

慶應義塾大学保健管理センター 保健師

本田由佳

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 研究員

A 研究目的

女性の健康は、生涯を通じて身体的・精神的に女性ホルモンの動態の影響を受けするため¹⁾、男性とは異なる特徴を持つことを正しく理解することが必要である。一方、近年、女性の社会進出に伴い、就労環境は

整備されつつあるが、月経に伴う心身の不調、子宮や乳房のがん、更年期障害などといった女性特有の疾患や、妊娠・出産といったリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点を考慮した健康支援ができる人材育成やその組織、仕組みの構築は十分に行われていない。

わが国における女性の健康支援は、現在、疾病治療やスクリーニングが中心で、団体ごと（医療、企業、学校、地域、自治体など）、診療専門科ごと（内科、産婦人科、小児科、精神科・整形外科など）、職域ごと（医師、看護師、薬剤師、保健師、養護教諭など）に縦割りに展開されており、これらの組織をシームレスに繋ぎ、補充していくことが重要となる。

本研究では、生涯を通じた女性の健康の保持増進を図れるような環境整備を進めるた

めに、国内過去5年の研究動向、および大学保健管理センター、保険薬局における各種取組に関する実態の把握、ニーズを明らかにし、女性の健康包括支援のために役立つ情報収集することを目的とする。

B. 研究方法 C. 研究結果および D. 考察 (1. 国内過去5年の研究動向)

国内文献データベース医学中央雑誌Web（医中誌）を用いて文献検索を行った。検索に用いるキーワードは、医中誌の文献に付与されている「統制語（ディスクリプタ）」の「医学用語シソーラス」キーワードで、「女性」and「健康」であった。2014年1月～2018年12月に発表された文献を検索し、登録された文献を抽出・ダウンロードし、女性の健康に関する文献データセットを作成し検討した。なお、分析は、原著、総説、学会の学術集会の一般演題・ポスター演題の抄録とし、事例・症例報告は除いた数を対象とした（(((女性/TA and 健康/TA)) and (DT=2013:2018 and PT=症例報告・事例除く))) and (DT=2014:2018)）。

文献データセットは、女性のライフステージ別に「妊娠（胎児）ステージ」「小児・思春期（0～18歳）」「成人期（19歳～44歳）」「更年期（45～64歳）」「高齢期（65歳～）」の5つに分類し、各ステージごとの文献タイトル数の比較を行った。

テキストマイニングを用いた分析としては、5つのライフステージ別に医中誌の文献に付与されている「統制語（ディスクリプタ）」の「医学用語シソーラス」キーワードの形態素解析を行い、女性の健康支援を示すキーワードであると考えられる名詞を抽出し、単語頻度分析を行った。さらに、女性の健康支援として「教育」「サービス」「予防」の3つの「医学用語シソーラス」キー

ワードとして含む文献を抽出し、各ステージごとの文献タイトル数の比較を行った。

「教育」「サービス」「予防」を「医学用語シソーラス」キーワードとして含む文献については、文献タイトルの「ワードクラウド」分析を行い、特定の単語が文献タイトル中にどのくらいの頻度で出現するのかを可視化させ、頻度変化の検討を行った。また「生涯を通じた女性の健康支援」で多く用いられるべき単語を明らかにするために、第4次男女共同参画基本計画の「生涯を通じた女性の健康支援」の文章について女性のライフステージ別に「ワードクラウド」による頻度変化の検討を行った

なお、本研究では、ユーザーローカル テキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)で分析・評価した。ワードクラウドは、文章中から出現頻度の高い単語を複数選び出し、その頻度に応じた大きさで図示する手法を用いた⁶⁻⁷⁾。

C. 研究結果

女性の健康に関する文献データセット作成のプロセスを図1に示す。

(1) 女性のライフステージ別の文献タイトル数

医学中央雑誌Webを用いて、文献検索の結果、分析対象となった文献は総計3,738報であった（図1）。

女性のライフステージ別の文献タイトル数では、「妊娠（胎児）期」188報、「新生児期（0～1歳）」39報、「乳児期（1～23ヶ月）」：45件、「幼児期（2～5歳）」81報、「小児期（6～12歳）」102報、「青年期（13～18歳）」420報、「成人期（19～44歳）」1,946報、「中年期（45～64歳）」1,751報、「高齢期（65～歳）」1,515報で、「成人期（19～44歳）」

「中年期(45～64歳)」「高齢期(65～歳)」が占める割合が多かった(図2)。

(2) 「医学用語シソーラス」キーワードの頻度に関する単語頻度分析

女性の5つのライフステージ別に、「医学用語シソーラス」キーワードの単語のうち上位50件を抽出した結果が表1である。単語頻度解析の結果、上位50件は、全てのライフステージにおいて、名詞が抽出された。どのステージにおいても、「診断」に関する文献が上位を占め、妊娠(胎児)期では4位であったが、その他のステージでは「診断」が1位であった。

(3) 「教育」「サービス」「予防」を「医学用語シソーラス」キーワードとして含む女性の健康の文献タイトル数

分析対象となった女性の健康に関する文献データセット3,738報のうち、「教育」「サービス」「予防」を医中誌の文献キーワードとして含む文献は1,369報(36.6%)であった。それぞれの内訳は、「教育」442報(32.3%)、「サービス」529報(38.6%)、「予防」398報(29.1%)、であり、「サービス」「教育」「予防」の順にその数は減少した。

図3は、女性のライフステージ別の「教育」「サービス」「予防」に関連した文献タイトル数である。

妊娠(胎児)期および小児・思春期(0～18歳)の「女性の健康」と「教育」「サービス」「予防」に関する研究は、成人期(19歳～44歳)に比較して少なかった。成人期以降(19歳～)は、どのステージにおいても「サービス」「教育」「予防」の順に研究が行われ、女性のライフステージ別の傾向は全体の傾向と同様であった。

(4) 「教育」「サービス」「予防」を「医学用語シソーラス」キーワードとして含む文献における文献タイトルの「ワードクラウド」分析

(4).1 「女性の健康」と「教育」

女性のライフステージ別に文献タイトルについてワードクラウドで表現したものを図4.1-4.5に示す。文字が大きいものほど出現頻度が高くなっていると解釈する。胎児・妊娠期(図4.1)には、「就労」「既往」「療養」「職域」「妊娠」「生活習慣病」「妊娠高血圧症候群」「プライマリ・ケア」などの文字がみられる。小児(0～18歳)期(図4.2)には「プライマリ・ケア」「結核」「口腔」「思春期」「診療」「実態調査」「observation」、成人(19～44歳)期(図4.3)では「看護学生」「看護」「保健指導」「健康」「教育」、更年期(45～64歳)では「更年期」「予防」「生活習慣病」「因子」「中高年」「ヘルスケア」「率」「受診」、高齢期(65歳～)では「高齢者」「QOL」「高齢」「要因」「健康」「因子」「プログラム」となっており、女性のライフステージごとに抽出された単語が異なった。女性の健康と教育という点で考えると、更年期や高齢期は「予防」「QOL」に関連したプログラムや教育の検討が多く、妊娠期や思春期を除いた更年期以前の若い世代では、看護学生や看護、大学生を扱った研究が多いことが予想され、それ以外の性成熟期女性を対象とした女性の健康と「教育」に関する研究は乏しいことが予想された。

(4).2 「女性の健康」と「サービス」

女性のライフステージ別に文献タイトルについてワードクラウドで表現したものを図5.1-5.5に示す。胎児・妊娠期(図5.1)には、「GDM」「周産期」「メンタルヘルス」

「妊娠糖尿病」「予後」「就労」「既往」などの文字がみられる。小児・思春期(0～18歳)(図 5.2)には「肥満」「Obese」「因子」「代謝」「functioning」「patient」「尺度」、成人期(19歳～44歳)(図 5.3)では「受診」「健康診断」「保健指導」「生活習慣」「特定健康診査」「健康」「患者」「女性」「大学生」「健康」、更年期(45～64歳)(図 5.4)では「受診」「健康診断」「特定健康診査」「因子」「生活習慣」「保健指導」「関連性」「要因」「患者」、高齢期(65歳～)(図 5.5)では「受診」「関連性」「高齢者」「特定健康診査」「健康診断」「因子」「関連性」となっており、成人期(19歳～44歳)以降の女性の健康に関する「サービス」は「受診」「特定健康診査」が中心に研究されていることが予想された。

(4).3 「女性の健康」と「予防」

女性のライフステージ別に文献タイトルについてワードクラウドで表現したものを図 6.1-6.5に示す。胎児・妊娠期(図 6.1)には、「生活習慣病」「予後」「妊娠高血圧症候群」「GMD」「予後」「妊娠」「既往」「スクリーニング」「2型糖尿病」「フォローアップ」「授乳」などの文字がみられる。小児・思春期(0～18歳)(図 6.2)には「看護」「安全性」「papillomavirus」「safety」「主観的」「HIV」「思春期」、成人期(19歳～44歳)(図 6.3)では「予防」「子宮頸がん」「看護」「因子」「受診」「介入」「因子」「一次」「健康」「要因」、更年期(45～64歳)(図 6.4)では「更年期」「予防」「生活習慣病」「因子」「中高年」「ヘルスケア」「看護」「健康」「率」、高齢期(65歳～)(図 6.5)では「介護予防」「高齢者」「高齢」「生活習慣病」「要因」「予防」「運動器」「プログラム」となっており、小児・

思春期(0～18歳)、成人期(19歳～44歳)においては「子宮頸がん」「予防」の研究が多いことが予想された。

(5) 第4次男女共同参画基本計画(平成27年12月25日決定)「生涯を通じた女性の健康支援」内容に関するライフステージ別「ワードクラウド」による頻度変化の検討

第4次男女共同参画基本計画(平成27年12月25日決定)「生涯を通じた女性の健康支援」に記載されている内容について、女性のライフステージ別にワードクラウドで表現したものを図 7.1-7.5に示す。

胎児・妊娠期(図 7.1)には、「図る」「鑑みる」「係わる」「医療機関」「出産」「妊婦」「体制」「整備」「子育て」「切れ目」などの文字がみられた。小児・思春期(0～18歳)(図 7.2)には「性感染症」「子宮頸がん」「医学」「性差」「若年層」「避妊」「啓発」「妊娠」、成人期(19歳～44歳)(図 7.3)では「子宮頸がん」「乱用」「未成年者」「妊娠」「出産」「ライフデザイン」「性感染症」「喫煙」「整備」「飲酒」、更年期(45～64歳)(図 7.4)では「率」「更年期」「がん検診」「就業」「疾患」「受診」「乳がん検診」「心身」「女性特有」「性ホルモン」「骨粗しょう症」「心身」「精密検査」、高齢期(65歳～)(図 7.5)では「営む」「踏まえる」「高齢化」「運動器症候群」「ロコモティブシンドローム」「健康上」「延伸」となっていた。

近年、我が国においては、女性の就業等の増加、晩婚化等婚姻をめぐる変化、平均寿命の伸長等に伴う女性の健康に関わる問題により、女性ホルモン変動に応じた、生涯を通じた女性の健康支援体制の整備が必要であり2)、それら体制を整えるには、客観

的な根拠(エビデンス)に基づく女性の健康支援の検討を進めることが必要と考える。

今回我々は、我が国のライフステージごとにおける過去5年間の女性の健康支援に関する文献の「医学用語シソーラス」キーワードと文献タイトル、第4次男女共同参画基本計画の「生涯を通じた女性の健康支援」内容について、テキストマイニングによる分析をすることで、女性の健康支援領域の現状と動向を量的に明らかにした。

女性のライフステージ別の「女性の健康(教育・サービス・予防)」に関する過去5年間の研究は、19歳未満での研究は非常に少なく、成人期・更年期・高齢期(19歳以降)は多く実施されていた。しかし、「女性の健康」として扱う研究内容は、「生涯を通じた女性の健康支援」という観点からは、必ずしも十分ではなく、特に、成人期(19歳～44歳)の研究は、対象は「看護学生」「大学生」「女性」「患者」、研究内容としては「看護」「教育」「健康」「調査」「健康診断」「因子」「生活習慣」「特定健康診査」「保健指導」が多く出現していることから、大学生である19歳～22歳、特定健康診査対象である40歳以降での検討はされているが、大学を卒業する23歳以降40歳未満での検討は少ないと思われた。それを裏付けるように、第4次男女共同参画基本計画(平成27年12月25日決定)「生涯を通じた女性の健康支援」の成人期(19歳～44歳)の検討において出現頻度が多く、文献タイトルとしても適すると思われるキーワードは、「子宮頸がん」「妊娠」「出産」「ライフデザイン」「性感染症」「喫煙」「整備」「飲酒」であったが、成人期女性の過去5年間の女性の健康支援に関する「医学用語シソーラス」キーワードと文献タイトルの分析では、「子宮頸がん」以外のワードは抽出さ

れなかった。

今後、妊娠(胎児)期は「医療機関」「出産」「妊婦」「体制」「整備」「子育て」、小児・思春期(0～18歳)は「性感染症」「子宮頸がん」「性差」「避妊」「啓発」「妊娠」、成人期(19歳～44歳)では、特に大学卒業後から40歳未満を対象とした「子宮頸がん」「妊娠」「出産」「ライフデザイン」「性感染症」「喫煙」「整備」「飲酒」のキーワードを含む、研究に取り組みエビデンスを構築していく必要があるのではないかと考えられた。

文献

- 1) 対馬ルリ子. 【女性ホルモンとアンチエイジング】 人生100年時代の女性の生涯健康 女性の健康特性を大切にしよう. アンチ・エイジング医学 2018;14.3:322-329.
- 2) 大田朋子. 【バイオインフォマティクス】テキストマイニング. 医学のあゆみ 2002;200:626.
- 3) 那須川哲哉, 諸橋正幸, 長野 徹. テキストマイニング:膨大な文書データの自動分析による知識発見. 情報処理 1999;40:358-364.
- 4) 小野大樹, 高林克日己, 鈴木隆弘, 他. テキストマイニングによる退院サマリー自動分類の試み. 医療情報学 2004;24:35-44.
- 5) 内閣府. 第4次男女共同参画基本計画(平成27年12月25日決定)第6分野 生涯を通じた女性の健康支援 ; (http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/pdf/2-06.pdf) 2019/11/3閲覧
- 6) 石田, 金. “コーパスとテキストマイニング”, 2012, p2-4
- 7) 鈴木, 鈴村. “データビジュアライゼーションのデザインパターン 20”, 2015, p42

(2. 大学保健管理センターにおける実態調査)

B. 研究方法

平成30年8月2日-3日東京で開催された公益社団法人全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会(慶應義塾大学三田キャンパス南校舎ホール、研究集会代表世話人 慶應義塾大学保健管理センター所長 森正明)にて、大学生の健康を支援する立場にある大学保健管理室の職員を対象に、各種大学にて実施している女性の健康支援に関する実態について記述式アンケート調査を行った。

本研究は、研究代表者 荒田尚子の所属機関である国立研究開発法人 国立成育医療研究センター倫理審査承認後に実施した。

(番号1877)

D. 結果

対象者の職種は、看護師が最も多かった(49.4%)。多くの大学は、貧血、月経関連疾患、拒食症、うつ、甲状腺疾患を、女子大学生の健康課題として把握していた。医師、助産師は、把握している全ての課題に対して個別または時々個別に対応していたが、それ以外の職種では、対応できていない場合もあった。婦人科医との連携・協力体制がある保健管理センターは32.1%、女子学生向けの健康支援やプログラムを実施している保健管理センターは28.4%であった。

E. 考察

全ての女子大学生の女性健康支援を行うために、大学保健管理センターと連携した女性特有の健康課題に対する取組として、婦人科受診の重要性の啓発やヘルスリテラシー向上施策等を検討する必要性が示唆された。

(3. 保健薬局における実態調査)

B. 研究方法

本研究は、2019年2月から3月に株式会社日本アルトマークが運営する「医師・医療従事者専用ニュースポータルMedy」サイトシステムを使用している薬剤師(Medy会員)を対象に実施した。調査の案内を、株式会社日本アルトマークが発行する雑誌「クレデンシャル」を送付する薬局に同封・郵送し、案内を紙で確認後、webアンケートサイトURLへアクセスし、参加同意が得られた薬剤師を対象約とした。

調査内容は、薬局が把握する女性の健康課題・支援、薬局が実施している積極的な女性の健康支援・プログラム等であり、薬局における女性の健康支援・プログラム実施率、薬局における婦人科との連携の割合、薬局の所在地・規模と女性の健康支援との関係、薬局で実施されている女性健康支援の対象と内容について確認した。

本研究は、研究代表者 荒田尚子の所属機関である国立研究開発法人 国立成育医療研究センター倫理審査承認後に実施した。

(番号2141)

C. 研究結果

対象者の年代は20代4.1%、30代31.7%、40代30.3%、50代以上33.9%であった。健康サポート薬局の割合は、10.7%であった。女性の健康支援の取組を実施している保健薬局の割合は、全体の13.2%で、更年期以降の女性に実施されていた。薬局に訪れる女性からの相談で多い項目は、不眠、便秘・下痢、頭痛、倦怠感、冷え、こころ、肩こり、尿もれ、高血圧、腰痛の順に高く、月経やPMSは下位であった。保健薬局に務める薬剤師は、現在、セミナー、女性の健康推進室 ヘルスケアラ

ボ、妊娠と薬センターから情報を集めているが、実際には、産婦人科医からの情報を得たい希望が明らかとなった。

E. 考察

厚生労働省は、地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援する薬局である「健康サポート薬局」数は、1,089件(平成30年8月31日時点)であると報告している⁸⁾。平成30年度患者のための薬局ビジョン推進事業(モデル事業)一覧(47件)には、女性の健康支援課題事業の記載はない。その中で宮原富士子らは、薬局のみでの女性の健康支援はなかなか難しい面があるため、女性の健康支援を行うNPO法人「HAP」(healthy aging projects for women)を立ち上げて、介護施設や製薬メーカーなど法人会員との協力体制を構築し、様々な領域から医師も参加・連携する「アドバイザリーボード」の準備、会員からの質問に対応するシステムの構築を行っている⁹⁾。

本調査において、保健薬局に務める薬剤師は、現在、セミナー、女性の健康推進室ヘルスケアラボ、妊娠と薬センターから情報を集めているが、実際には、産婦人科医からの情報を得たい希望が明らかとなった。産婦人科やウイメンズヘルスの専門家監修のサイトはメディカルスタッフにも波及する可能性が示唆され、今後構築するプラットフォームにおいて、保険薬局の薬剤師に有用な女性健康情報を展開することで、女性の健康の維持・増進を包括的に支援に発展する研究の実現が期待される。

文献

8) 厚生労働省「地域包括ケアシステムにおいて かかりつけ薬剤師・薬局に期待される役割」

<https://www.mhlw.go.jp/content/12600000/000363822.pdf>

9) 宮原 富士子(ジェンダーメディカルリサーチ)、目指せ!健康サポート薬局(第3回) かかりつけ薬剤師は地域包括ケアのキーパーソン! Osteoporosis Japan Plus(2189-7921)1巻3号 Page46-47(2016.09)

F. 健康危険情報

特になし

G. 学会発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

なし

表1 女性のライフステージ別検索 「医学用語シソーラス」キーワードからの単語頻度解析
(上位50)

図1 女性の健康に関する文献データセットの作成プロセス

図2 女性のライフステージ別「女性」and「健康」の「医学用語シソーラス」キーワード
として含む文献タイトル数

図3 女性のライフステージ別「女性の健康」と「教育」・「サービス」・「予防」の
「医学用語シソーラス」キーワードを含む文献タイトル数

図4-1 妊娠(胎児)期における「女性の健康」と「教育」

図4-2 小児・思春期(0~18歳)における「女性の健康」と「教育」プライマリ・ケア、思春期、
実態調査、診療

図4-3 成人期(19~44歳)における「女性の健康」と「教育」

図4-4 更年期(45歳~64歳)における「女性の健康」と「教育」

図4-5 高齢期(65歳~)における「女性の健康」と「教育」

図5-1 妊娠(胎児)期における「女性の健康」と「サービス」

図5-2 小児・思春期(0~18歳)(0歳~18歳)における「女性の健康」と「サービス」

図5-3 成人期(19歳~44歳)における「女性の健康」と「サービス」

図5-4 更年期(45歳~64歳)における「女性の健康」と「サービス」

図5-5 高齢期(65歳~)における「女性の健康」と「サービス」

図6-1 胎児・妊娠期における「女性の健康」と「予防」

図6-2 小児・思春期(0歳~18歳)における「女性の健康」と「予防」

図6-3 成人期(19歳~44歳)における「女性の健康」と「予防」

図6-4 更年期(45歳~64歳)における「女性の健康」と「予防」

図6-5 高齢期(65歳)における「女性の健康」と「予防」

図7-1 第4次男女共同参画基本計画「生涯を通じた女性の健康支援」妊婦(胎児)期

図7-2 第4次男女共同参画基本計画「生涯を通じた女性の健康支援」小児・思春期(0~18歳)

図7-3 第4次男女共同参画基本計画「生涯を通じた女性の健康支援」成人期(19~44歳)

図7-4 第4次男女共同参画基本計画「生涯を通じた女性の健康支援」更年期(45~64歳)

図7-5 第4次男女共同参画基本計画「生涯を通じた女性の健康支援」高齢期(65歳~)

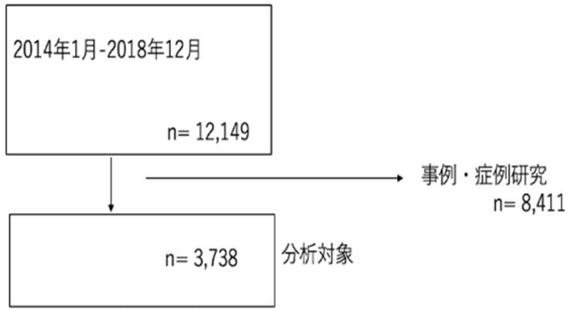


図1 女性の健康に関する文献データセットの作成プロセス

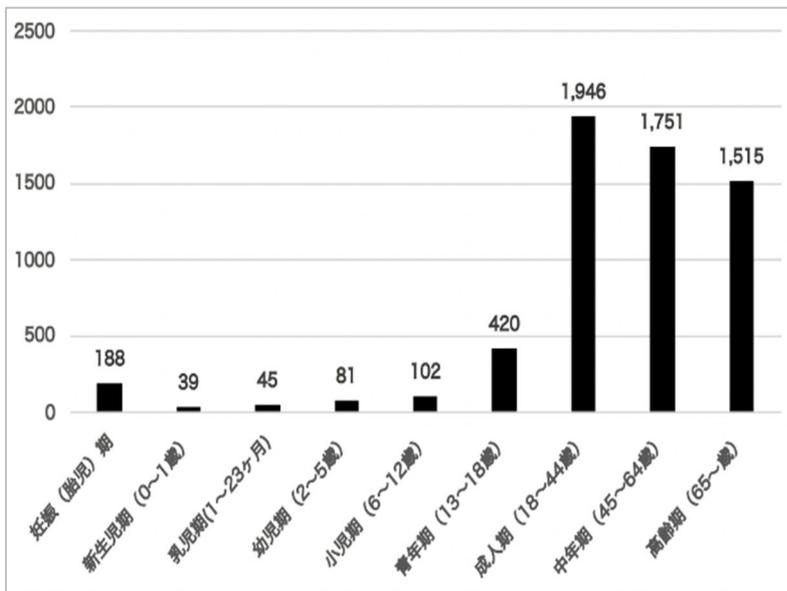


図2 女性のライフステージ別「女性」and「健康」の「医学

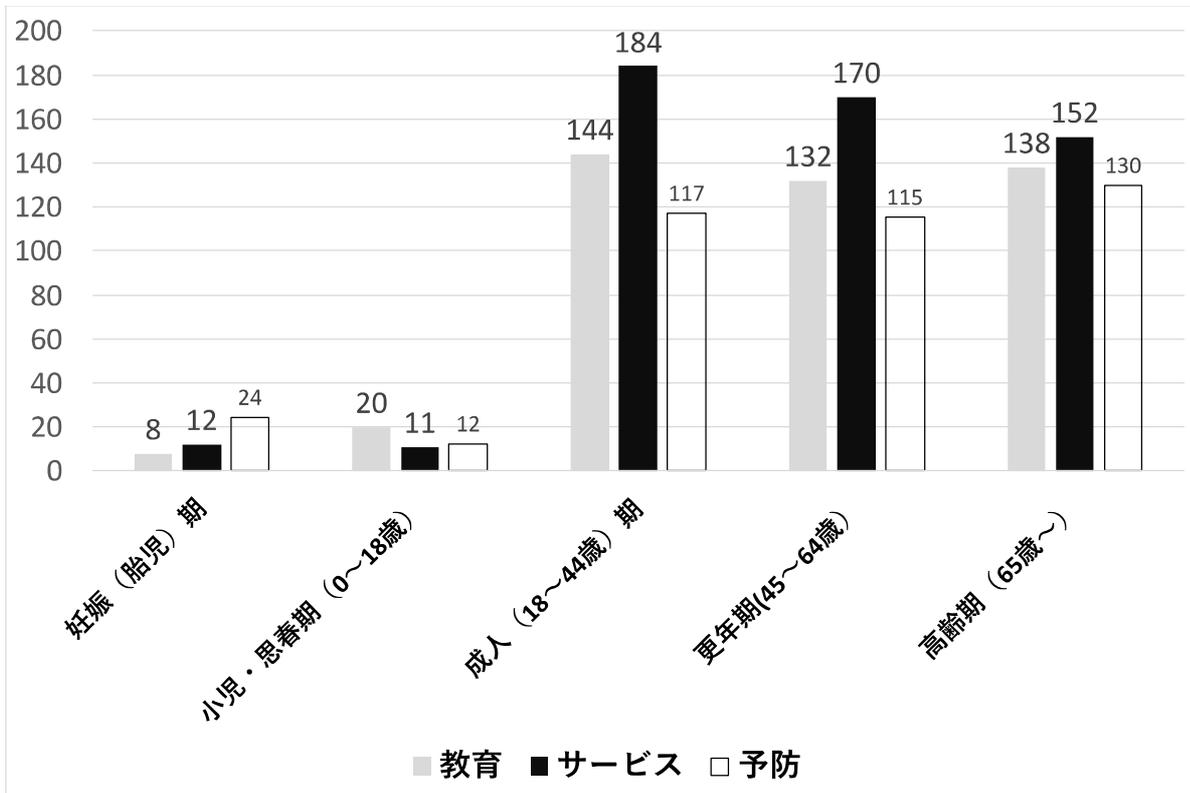


図3 女性のライフステージ別「女性の健康」と「教育」・「サービス」・「予防」の「医学用語シソーラス」キーワードを含む文献タイトル数



図4-1 妊娠（胎児）期における「女性の健康」と「教育」

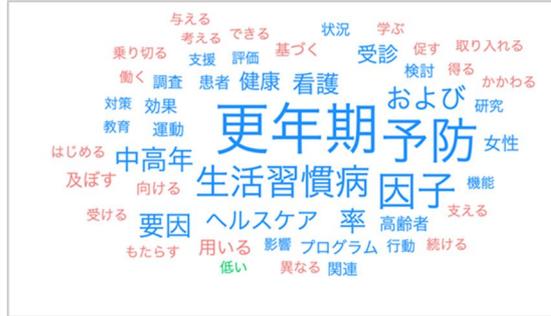


図4-4 更年期（45歳～64歳）における「女性の健康」と「教育」



図4-2 小児・思春期（0～18歳）における「女性の健康」と「教育」

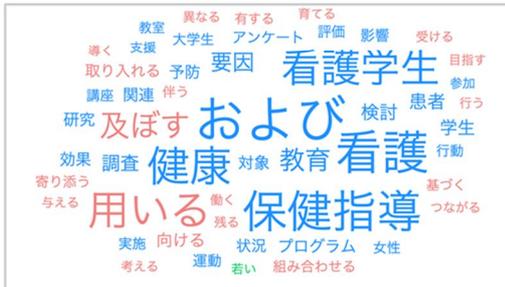


図4-3 成人期（19～44歳）における「女性の健康」と「教育」

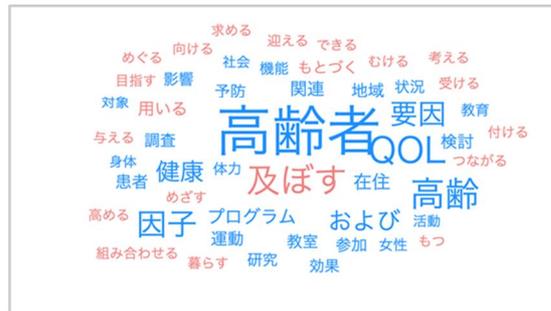


図4-5 高齢期（65歳～）における「女性の健康」と「教育」

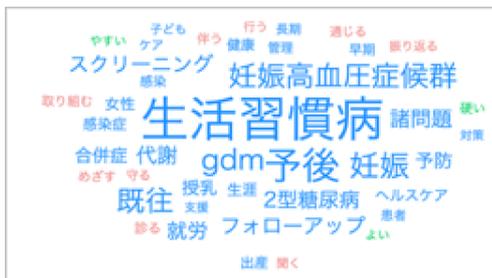


図6-1 胎児・妊娠期における「女性の健康」と「予防」

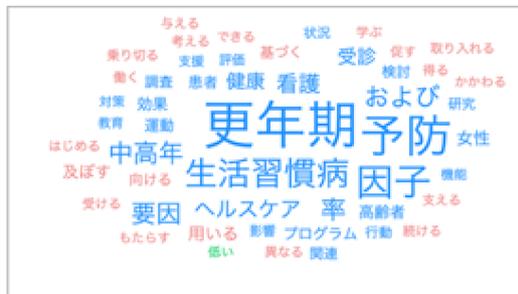


図6-4 更年期（45歳～64歳）における「女性の健康」と「予防」



図6-2 小児・思春期（0歳～18歳）における「女性の健康」と「予防」

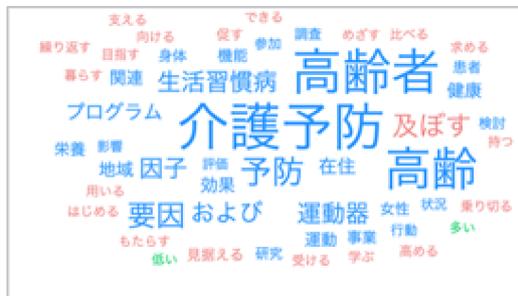


図6-5 高齢期（65歳）における「女性の健康」と「予防」

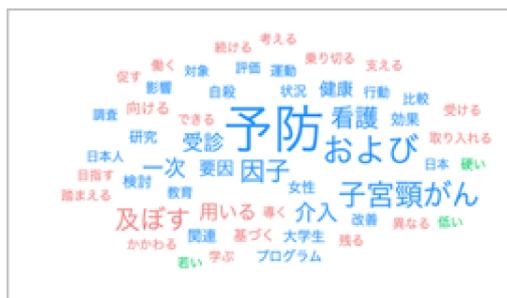


図6-3 成人期（19歳～44歳）における「女性の健康」と「予防」

